

# 矢野の水系

～本流とそれに合流する支流をふくめる水の流れを水系という。  
矢野には東西の矢野川・宮下川の幹流と数本の支流・分流がある～

- (1) 江の口川
- (2) 細越川 (小田川)
- (3) 庸司 (ようじ) 川
- (4) 観音 (かんのん) 川
- (5) 山王 (さんのう) 川
- (6) 久食 (ひさくい) 川
- (7) 花上川 (山田川)
- (8) 熊崎 (くまさき) 川
- (9) 大年川
- (10) 的場川
- (11) 神長 (かみなが) 川
- (12) 絵下谷川
- (13) 背戸川

★矢野公民館だより 平成23年(2011年)5月号～平成24年(2012年)9月号の  
記事からの再掲

★(1)～(13)いずれも

文 発喜会 楠 精洲

写真 枝長 信行

## (1) 江の口川

矢野水系の傍系の2流が大井地区にある。

江の口川は、大井（もと大江）の口、大井港（みお）に流入する。

河口には潮風呂・石灰屋（いしばいや）漁協（矢野漁業協同組合）ビルが立っていた。大年社にちなむ大年迫（おおとしさこ）・たたらかじ（和鉄精練法＝たたら吹き）にちなむタタラガ迫が水源。今は川水や川床は黄色くにごっている。（矢野西一丁目37-38）



## (2) 細越川(小田川)

細越川（また小田川）は坂町と境する細越山に沿って下る。古い地名に、小田・瀬越（ウソコヒ）が残る。四方山（しほうさん＝竜田社を祭る）のふもとを洗い「舟溜り」を河口とする。呉線に細越踏切を、国道31号に細越川橋を設ける。なお、新開地に大井新橋が架かる。

（矢野西2-14 パブリコーポ矢野）



### (3)庸司(ようじ)川

矢野川の分流。姫宮(矢野西6-13)ー中町ー錦町ー中浜・極楽橋で宮下川に合流する。(N字型の水流)

古く暗渠(あんきょ)になった細流を知る人は少ない。生き証人の「二ツ橋」の橋標が1本残る。「明治14年第九月町(本町)シナ」と読める。

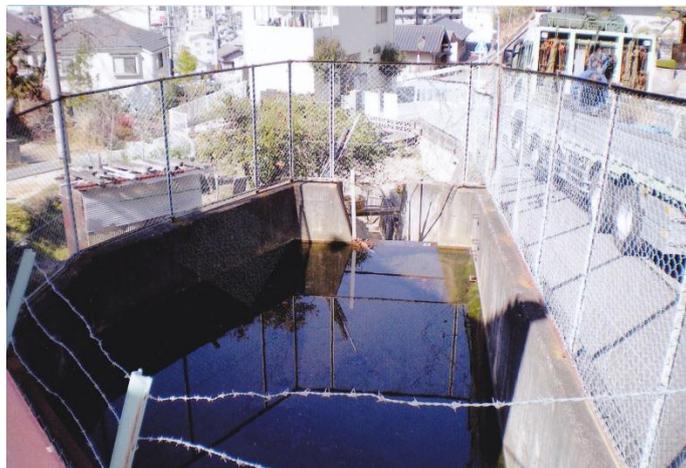
古名は楊枝川だった。つまようじ(爪楊枝)にちなむ柳(楊)の木が川端に植わっていた(古絵図)。(矢野西五丁目12)



### (4)観音(かんのん)川

北東の丘陵の観音(かんのん)さんにちなむ「観音山ー観音谷」による名称。

観音川は海田町と境する町道・田丸線に沿う。呉線・国道31号を潜(くぐ)り、陸上自衛隊前の尾崎川に流入する。昭和34年、田丸線の敷設時に暗渠となった。写真は、矢野中学への登り口から西方を見る。川筋に幸崎(さいざき)会館とセブンイレブン。(矢野東四丁目ー6)



## (5) 山王(さんのう)川

泉(いずみ)山、泉(の谷)に発し、山王社ふもとの宮下会館前を左折して宮下川と合流する。山王川は知らなくても、小越(こごし)火葬場への道筋・池田の峠(たお)道は知られている。(会館前に池田農道改修碑)

小川は会館を左に宮の畝(矢野西小)の下を流れる。ついでながら宮下町内会では社(やしろ)を三玉神社といっている。(矢野西五丁目ー26)



## (6) 久食(ひさくい)川

山王川と同様に宮下川の左岸に流入する。「くい」は「くえ(崩)」の意。

久しく(長い間)崩え(くずれ)ていた(久喰)山のふもとに久食農道改修碑(昭和26年)が矢野小学校の西側に立つ。ここから小川は暗渠(あんきょ)になる。

(矢野西六丁目25)



## (7) 花上川(山田川)

山田と西尾の丘陵にはさまれた谷間(たにあい)の集落が鼻上(はながみ)で、花上と美化した。

木舟谷に発し花上薬師堂、ひずり城跡のふもとを流れる花上川は、山田池から下る山田川と合流し、さらに梶木(かじき)川を加えて矢野川に注ぐ。写真は花上川・山田川の合流点。(矢野東四丁目 34)



## (8) 熊崎(くまさき)川

下流で花上(はながみ)川と合流し、出合(であい)橋で矢野川と出会う。上流は「土石流危険渓流」砂防指定地。大木(おおき)川、下ってつなし(このしろの幼魚)川の名が残る。つなし、鯨(矢野出張所付近)は海が湾入していた古い呼び名である。写真は、「つなし」「つなし川」地点。左は元和泉町長宅(矢野東五一15)、右は森永元醤油屋。



## (9) 大年川

大年社(おおとしのかみ)は穀物の守護神。大年山の大年社跡付近は早くからの農耕地で、矢野八幡の神官の住居「神主(かんぬし)屋敷」を残す。

東迫(町内会)の広い田畠は、熊崎川・大年川・的場川の3流にうるおされていた。写真は大年山(東保育園)より細流を手前に神主屋敷(矢野六丁目-10)を見る。



## (10) 的場川

東迫(町内会)の武士に関係した(小)地名に的場・矢賀などがある。

的場(まとは)は矢場・射場。的をかけて弓を射る練習する場所である。

的場川は県道34号線をくぐり、矢野東六丁目-23地点で矢野川と合流する。

写真は「イーストヒルズ矢野」付近の小流。



## (11) 神長(かみなが)川

神長(古くはカミナカ・髪ナカ)は近くにお大師さん(狐原大師堂)・稲荷さん(社)・権現(ごんげん)さん(愛宕社)などが点在する、宗教色濃い地名である。神長川が矢野川に合流する地点に大師橋(古橋)と神長橋(新橋)がかかる。写真は矢野東七の天神・神長の2つの日広団地を東方に見る。



## (12) 絵下谷川

川の名は絵下(えげ)山・絵下谷の親子関係の地名による。絵下谷川は矢野川の分流にもかかわらず、矢野のみならず県下にその名がある。明治40年、川中で細形銅剣(弥生時代)が発見された。合流点は森永工業(矢野東七丁目-41)。

写真は坊田山荘「坊僧乃滝」付近。近くに絵下観音堂があり、小(ミニ)景勝地(スポット)である。



## (13) 背戸川

大川(矢野川)の背戸(せど)、すなわち大川の裏(西側の低地)を流れる。  
大正8年背戸川迫は、新(開)地を美化して真地(町内会)と改称した。

今は「背戸」の名も「川」もすっかり忘れられた。

写真は矢野西五-9の街区を細々と流れる、文字どおりの「せどの川」。

